

【株主様から事前に寄せられたご質問】

Q1

賃上げ、ベースアップの状況について。

A1(議長、代表取締役社長 山口)

2022 年より始まった急激な物価上昇は、当社従業員の生活にも大きな影響を及ぼしています。これら物価上昇に対する生活維持の観点を主眼としつつ、同時に新卒初任給をはじめとした若手層の賃金改善に等級別の賃金改善を合わせる形で、4 月より賃金改定を行います。

ベースアップ率は約 5%となります。金額については、等級などにより異なりますが、おむね月額 1 万 2,000 円から 3 万円です。今回の賃金水準の引き上げは、現在の給与体系を導入した 2005 年以降、初めてのベースアップとなります。賃金の対応については、引き続き物価動向、マーケット水準、経営状況を踏まえ、持続的成長に必要な人材への投資として継続的な検証と、必要に応じた対応を行います。

【出席株主様からのご質問】

Q1

株価について、カゴメさんもだいぶ上がってきていますが、IT 銘柄が多いことと、この辺ではトヨタさんのような超有名銘柄の株がどんどん上がっています。外国人の方にどんどん買ってもらっていることがあります。私の尊敬するウォーレン・バフェットさんという人がいて、カゴメはどう見てもあの人の目に留まらないわけがないと思いますので、ぜひウォーレン・バフェットさんに買ってもらいたいと思います。頑張ってください。

A1(議長、代表取締役社長 山口)

ありがとうございます。全員で頑張っていきます。

Q2

今、メタンガスなどで牛肉が非常に嫌われると聞きます。培養肉や代替肉がいろいろ話題になっていると思いますが、カゴメさんは野菜栽培技術が非常に高いので、そのようなことについて研究を始められたかどうか、あるいは穀物が主体で野菜とは違うので全然関心がないのか、その辺りを聞きたいと思います。

A2(議長、代表取締役社長 山口)

カゴメは、植物性の食材だけで作ったいろいろな商品を拡充しています。例えば大豆ミートを使ったミートソースやカレーがあり、徐々に商品を増やしています。また、2022 年からは野菜と豆で作った卵も開発し、発売をしています。それから、朝に食べるシリアルで、大豆タンパクを使った「SOVE」というブランドがあります。

このような肉に代わる植物性の食品は非常に興味がありますし、将来的には市場も大きくなると考え、先行して開発や市場導入も含めて進めていますので、ぜひともご期待いただければと思います。

Q3

最近話題になっている小林製菓の紅麴を使ったサプリメント、健康食品での健康被害が報告されているようですが、紅麴を含めて御社の製品で健康被害の報告があるかどうかを教えてください。

A3（議長、代表取締役社長 山口）

小林製菓様が紅麴原料を供給しているのは 52 社あると言われてはいますが、そこにカゴメは該当いたしません。また、現時点においては小林製菓様との直接の取引もありません。従って私どもが今販売している商品において、今回の紅麴の案件に関連して自主回収をする予定はございませんので、安心してご愛用いただければと思います。

Q4

業績的には皆さんに頑張ってもらっていますが、今為替が 150 円で非常に安いので、これよりもっと安くなるとはあまり思いたくないのですが、為替が 1 円、10 円と上がったりと、下がったりすると、カゴメさんの場合は為替の影響でどのように損益が変わるのでしょうか。

A4（常務執行役員 CFO 兼 CRO 佐伯）

当社に与える円安の影響は大きく分けて 2 つあります。

1 点目は、国内加工食品事業の原材料価格が上がることです。従って利益がマイナスになります。

2 点目は、当社は海外に子会社を多く持っております。子会社は現地通貨にて決算をしますが、それを連結決算にする時に換算します。換算する際に円安であると、当社の業績に好影響をもたらします。結果として、例えば 1 円円安になるとどのように影響するのか、具体的には売上収益が約 9 億円上がります。

一方、利益につきましては、国内は原材料の購入が高くなるのでマイナス、海外の子会社の換算についてはプラスになり、プラスとマイナスの両方を合わせると、今はほぼ均衡した形になります。従って円安は売り上げには影響がありますが、利益にはほとんど影響がない事業構造にあると、我々は認識しています。

A4（議長、代表取締役社長 山口）

先ほどご説明したように、この何年間かで海外の売り上げが増えてきています。そのようなこともあり、現時点、為替が変動しても利益の面ではほぼ均衡する状態になっています。そのため、国内の売り上げ比率が高かった時代に比べると、状況が変わってきています。そ

の点をご承知おきいただければと思います。

Q5

カゴメの濃厚ソースは 1 番ポピュラーだと思います。ある時から注ぎ口が変わってすぐ切れが悪く、周りがベチャベチャになりますが、分かっているのでしょうか。

A5（議長、代表取締役社長 山口）

過去からもソースの注ぎ口はいろいろ改良を重ねてきています。改良する点があるのご指摘と受け取らせていただきました。また、私どもはお客様相談センターを設けており、商品の容器についてもお声が寄せられます。そこでいただいたご意見は社内で共有され、私のところにも共有されております。

Q6

先ほどの紅麴に多少関係するのですが、原材料を供給された側が、工場などで、不純物が入ったり、異物が入ったり、原材料のチェックはするものなのか、そのようなことは無駄なので、供給側の責任なのか、その辺りの考え方を教えていただけますか。

A6（生産調達本部長 葉色）

一般的に新しい原材料を採用する場合には、まずどのような危害があるかについて、分析、評価を行います。ここでサプライヤー様と購入の契約、品質に関する契約を締結します。

工場では、これが使われる際に、もともと合意した品質であるかどうか、異物等が含まれていないかどうかについて受け入れ検査という形で確認しています。例えば工場でフィルターを通して異物が入っていないかを確認したり、生産中には必ずマグネットやフィルターの定期的な確認をしたりして、原材料に間違いがないかどうかを確認しています。

A6（議長、代表取締役社長 山口）

工場に到着した時に検査をしているか、していないかについては、しっかり検査させていただいていますので、安心してご愛用いただければと思います。

Q7

事業報告書の 23 ページ、貸借対照表についてです。現預金が前年より 150 億円増えていきますし、借入金も長短合わせて約 100 億円増えています。先ほど原材料が上がっているのに、借入金も 100 億円増えたのだらうというのは納得しました。150 億円の預金として入ったのは、カゴメさんの実力ならば、ここまで決算期に置く必要はないのではないかと思います。何か事業目的があったのかと。

それから、関連して連結貸借対照表の国際標準ですか。私は初めて見たのですが、個々の人が見てはっきり内容が分かるのかと。このあたりは社長さんよりも経理担当の役員さんにどうなのでしょうかと、お聞きしたいと思いました。

A7（常務執行役員 CFO 兼 CRO 佐伯）

現金と負債を増やしたことについては、先ほどお話のありました原材料の大幅な高騰に備えて、あらかじめ手配したものです。また、昨年末に 100 億円の負債を追加しましたが、昨今、日本銀行総裁からコメントがあった通り、日本の金融政策もこれまでのものとは変わってきます。このようなことを踏まえて、あらかじめ低金利で現金調達ができる時にしておこうという意図がありました。

続いて連結貸借対照表について、当社は IFRS という国際財務報告基準に従っております。内容的には非常に専門的なところもありますが、われわれはそれを出来るだけ分かりやすい形でご説明したいと思っています。今後とも分かりやすい財務資料の作成に努めて参ります。

A7（議長、代表取締役社長 山口）

今年 2 月にも価格改定をお願いしました。23 年から 24 年にかけても、円安や様々な農作物の不作の影響もあり、原材料価格の上昇傾向が続いています。そのような中で原材料の高騰に備えて、現預金を少し多めに手配したということです。

Q8

先ほどスライドを見せていただいて、国内事業が少し弱い様な感じがしました。今度の株主配当 52 円は、自分たち株主にとってはすごくうれしいことですが、それは収益が出てからなのではないかと思えます。収益確保が完全に必須項目だと思います。

A8（議長、代表取締役社長 山口）

配当方針については、第 3 次中期経営計画 22 年から 25 年における配当方針を決めており、この期間においては総還元性向を 40%以上、1 株当たり 38 円以上を安定的に配当する方針を持っています。方針に基づき、経営状況を踏まえて、年度ごとの配当を決めています。来年の記念配当は、中期経営計画の中で特に売上収益が大幅に拡大するというので、10 円を記念配当させていただこうと予定していますので、ご理解をいただきたいと思えます。

Q9

社長は「野菜のカゴメ」と言っていましたよね。トマトやキュウリ、キャベツ、ハクサイなどの野菜はみんな土から上ですよ。それをまるきり逆に考えて、土から下のジャガイモやサツマイモに注目してほしいと、自分は思っています。ジャガイモをペースト状にして自家製のポテトサラダやミンチなどを入れて自家製のコロッケを作ったり、また、サツマイモペーストにすれば、それをただ絞って焼いてスイートポテトにしたりできます。そのペーストを混ぜてクッキーを作ったり、ミルクやコーヒーにペーストを溶かしてサツマイモミルクやサツマイモコーヒーにしたりするなど、土の下の野菜も注目して製品開発していただければ面白いと、自分は思います。

A9（議長、代表取締役社長 山口）

土から下の野菜について、いろいろご提案ありがとうございます。貴重なご意見として承りたいと思います。ただ、土から下はやっていないわけではなく、ニンジンのジュースは今年から相当力を入れていこうと思っています。これは土の下の野菜ですから、全くやっていないわけではないこともご理解いただければと思います。先ほどのジャガイモやサツマイモの商品開発のアイデア、本当にありがとうございます。

Q10

今日はいろいろご説明いただいて、特に中期経営計画は非常にいい内容になっているので、ぜひ実行して成果を上げていただきたいと思います。カゴメさんの株価についてお尋ねしたいのですが、これまで上場以来、確か 6 年余り前の 4,330 円が最高値だったと思います。それ以降、若干勢いがなく、多少は出てきているかというところはあるのですが、高値を上抜けないような状況が続いています。そこで質問ですが、現状の株価についてどのように自己評価されているのでしょうか。たぶんもう少し上げたいのではないかと思います。上げるために実際の経営上のことだけではなく、他に何か施策などを考えているのかどうかをお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

A10（議長、代表取締役社長 山口）

株価について、ご心配をおかけしています。私どもとしては、株価は株式市場から頂く当社への評価だと受け止めていますので、非常に重要なものだと考えています。株主様のご期待に添えるようにしていくためには、先ほどご説明した中期経営計画、あるいは将来のありたい姿、ビジョンを毎年しっかり達成していくことが一番肝要だと思っています。ですから、まずは全員で中期経営計画、あるいはビジョンの達成について、全力で取り組んでいきたいと思っています。

Q11

御社の取引先の一つに先日、シダックス株式会社を子会社化したオイシックス・ラ・大地株式会社があると思いますが、今後の関係ならびに位置付けについてお伺いしたいので、よろしくお願いします。

A11（取締役常務執行役員 小林）

オイシックス様との取引は、個別の取引となりますので、コメントは控えさせていただきます。オイシックス様は野菜、加工食品を直接お客様にお届けする特殊なルートをお持ちです。具体的な取引は申し上げられませんが、我々もお取引をさせていただいており、これからも成長していくルートだと認識していますので、友好的な関係を続けて参りたいと思います。

A11（議長、代表取締役社長 山口）

ただ今ご説明したように、今後とも良好な関係を続けていく方針としております。

Q12

カゴメの野菜生活のホームパックを買って毎日飲んでいるのですが、1 年前から内容量が 900 ミリリットルになったと思います。内容量を変更するに当たって、1,000 ミリリットルだった時と 900 ミリリットルに変えた場合で、消費者へのメリットやデメリットをどのように判断したのかをお聞かせいただきたいです。消費者としては消費量が同じであれば、容器を捨てる回数が 1 割増しになると思っています。

A12（マーケティング本部長 稲垣）

昨年の急激な原価上昇の中で、出来る限りお求めやすい価格で提供したいという思いから、100 ミリリットル下げさせていただきました。結果として廃棄が増えたことについては本当にご不便をおかけしています。出来るだけお買い求めやすい価格で提供していきたいという変わらぬ思いです。

A12（議長、代表取締役社長 山口）

事業報告の中でも説明させていただきましたが、この数年、原材料価格は過去に経験したことのない規模で、しかも短期間に上昇しました。その対応として販売価格は極力変えずにお届けしたいと考え、容量を減らす判断をさせていただきました。原材料の状況もありますので、何とぞご理解いただければと思います。

Q13

株主へのイベントがすごく少なくなったのは残念でたまりません。何かいろいろイベントをやっていたきたいです。

株主総会の会場ですが、株主さんが増えたことでキャパオーバーになってしまい、名古屋国際会議場センチュリーホールに変わってしまいました。昔からの株主にとってここはすごく不便です。当時、厚生年金会館は名古屋の池下から 1 分ぐらいで行けたのですが、西高蔵駅や日比野駅から少し歩かなければいけないので、今日の様な雨の日になるとすごくぬれて大変でした。

また、毎回総会の案内に「みんなで育てようトマトの苗プレゼントキャンペーン」が入っていて、私は毎回これに応募していますが一向に当たりません。これはどのような方が当たっているのかと思っているので、教えていただければと思います。

A13（議長、代表取締役社長 山口）

まず、株主の皆様へのイベントは、ご指摘の様に過去から比べると、少し内容が変わってきています。それから、コロナ禍の影響もありました。そのようなこともあって新しい株主様向けのイベントを今いろいろ試しているところです。例えばオンラインでの社長と語る

会、あるいは先ほども出た海外の拠点を視に行っていたり、オンラインの工場見学などをやったり、そのような形でいろいろ試しています。ご希望、ご要望は頂きましたので、貴重なご意見として承り、今後の株主様向けのイベントについて検討していきたいと思えます。

会場の件はこれまでキャパシティの問題があり、名古屋国際会議場で開催させていただいていましたが、こちらが改装に入りますので、来年からは場所が変わります。招集ご通知にも事前案内をさせていただいていますが、25 年 3 月の総会は Niterra 日本特殊陶業市民会館に会場が変更になります。

トマトの苗プレゼントは厳正に抽選をしていますので、必ず当選された方はいらっしやいます。引き続きご応募いただければと思えますので、よろしくお願ひします。

Q14

私は糖尿病で、以前、病院に行って看護師さんに聞いたら、野菜ジュースは砂糖がたくさん入っているから飲まないほうがいいですと言われましたが、大丈夫でしょうか。

A14 (議長、代表取締役社長 山口)

お医者様のご意見を最優先で聞かれて、食生活を改善されることが第一かと思えます。

野菜ジュースに砂糖が、というお話でしたが、私どもの野菜ジュースは砂糖を加えているものはありません。もともと野菜に入っている糖類だけで成り立っていますので、砂糖をたくさん加えているから、あの甘さが出ているわけではありません。ただし、野菜にはもともと糖類がありますので、その分はそのままジュースの中に入っています。ですから、1 日にたくさん飲み過ぎると糖類を取り過ぎることが懸念されますので、そのあたりは先ほど申し上げたように、お医者様の食事指導の中でうまくご利用いただければと思えます。そのような形で継続的にご利用いただけたら、大変ありがたいと思えます。

Q15

会社の中の社員様たちに楽しく働いていただければ、自然と士気が上がると思えます。女性の働き方改革や役員の割合もご登壇いただいている方は女性が 3 名しか見えませんが、どのようなになっているのかを質問したいです。

A15 (議長、代表取締役社長 山口)

女性の管理職比率についてお答えします。直近でいうと、日本カゴメでは、管理職比率は 24 年 4 月に 10% をやっとなえて 10.7% になります。今、国内の食品製造業の平均値は 7% 位だと聞いていますから、そこよりは少し上になっています。しかし、まだまだ女性の管理職比率は低いと感じていますし、引き続き施策をいろいろ打っていきたくて思っています。

Q16

昨年と同じ様な意見が出てソースの容器の話は研究しますとあった様な気がするのです

が、直っていません。カゴメのソースはすごく美味しくて、3種類あってどろどろしている濃いソースが一番出にくいです。十文字に蓋が付いていて、その上に大きな蓋があり、出づらいです。他社の例えば、ごまドレッシングがどのようになっているかを研究して、カゴメのソースはすごく美味しいので、もっと売れて当たり前だと思うぐらいです。

だから、容器は本当に使いやすいように、出やすいようにもっと研究すべきだと思います。

A16（議長、代表取締役社長 山口）

ソースの容器については今回お 2 人目のご意見ですから、回答は先ほどの通りとなります。詳細にいろいろとご意見を頂きましたので、貴重なご意見として承らせていただきます。ご意見、ありがとうございます。

Q17

昨今、人生 100 年時代と言われている中、健康志向はかなりブームが進んでいます。自分は予防医学に結構興味がありますので、そのようなものに注目しています。カゴメとして予防医療も視野に入れてやっている取り組みがありますか。

A17（議長、代表取締役社長 山口）

医療と食べ物は近接していますが、やはり本質的には違う部分もあります。野菜がどう体にいいのかについて、大学の医学部との共同研究は過去からやっており、いろいろな試験結果も出てきていますし、論文化もしています。ただ、カゴメは食の会社であることから、大きく医療の事業を展開するという中期的な方向感を持っていませんので、今後も日々の食事の中から健康寿命を延伸していくアプローチが中心になっていくのではないかと思います。

Q18

保育に携わっているのですが、子供達は好き嫌いが多過ぎて全然食べない状態になっています。スポーツ業界においても基礎運動能力の低下がすごく見られます。ですから、そのようなところへの取り組みをこれから視野に入れて動かれているのでしょうか。

A18（議長、代表取締役社長 山口）

子供さんの食べ物の好き嫌いについては、私どもも非常に問題だと思っています。数年前から、「植える育」から「食べる育」、「植育」から「食育」という活動を始めています。調査から、お子様の頃に野菜を育て、それを食べる体験をした方は大人になっても野菜をしっかり食べることが分かってきました。ただ食べるのではなく、育てて食べる体験の企画をいろいろやらせていただく中で、お子様の偏食のようなものが解決されないかというアプローチを数年に渡り実施しているところです。

Q19

人手不足もあるので、これからどのように取り組まれていこうとしているのかをお聞きしたいです。

A19（議長、代表取締役社長 山口）

私どもの工場ではかなりたくさんの方に働いていただいていますので、そのような中で自動化の投資、ロボットを入れることなどを進めており、自社工場においての人手不足の対応を進めています。

以上